

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501076		
法人名	医療法人愛全会		
事業所名	グループホーム こがね虫の家		
所在地	〒005-0811 札幌市南区川沿11条2丁目4番7号 (電話) 011-578-5064		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月15日	評価確定日	平成22年2月17日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年11月9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	16,000~24,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 実費 円
	月額	43,000 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.3 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 愛全会 愛全病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設10周年を迎えている。母体法人の施設との緊密な連携体制の下、利用者の健康管理の徹底や職員の研修体制の充実に力を注いでいる。「地域に見守られ、穏やかに100歳へ」という理念の実現に向けて、事業所職員が積極的に地域へ働きかけ、地域と良好な関係を築き上げている。また、町内会との連携協力体制、シニアサロン陽だまりへの参加、ボランティアの定期的受け入れなど、地域社会資源を有効に活用して利用者により多彩な暮らしを提供している。管理者と職員が一丸となって利用者本位のケア実践、より質の高いケアの提供に向けて日々努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題であった同業者との交流及び災害対策については、改善計画を立て、目標に沿って市内及び地方の他事業所との交流実現しており、また、町内会との合同防火訓練の実施など、具体的に改善が進んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義や目的を全職員に伝え、日ごろのケアを振り返る機会として活用している。今回の自己評価においても話し合いの時間を設けて、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は民生委員、町内会防災部長、家族、地域包括支援センター職員、事業所職員を構成員として、概ね2ヶ月に一度開催している。会議では、事業所側からの活動報告にとどまらず、参加委員が意見や要望を出すことで、より質の高い事業所運営につなげている。また、学習会を同時に行って認知症理解の推進の場としても活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には必ず声かけをし、希望や意向の把握に努めており、専用ノートに記録し、必要に応じてカンファレンスで検討している。また、外部の苦情相談窓口や苦情解決の流れについて周知を図るとともに、毎年アンケートを実施し、家族が要望や意見を表出する機会を設けている。アンケート結果は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し、総会や小旅行、班長会議、地域の防災訓練等に参加して地域との交流を図っている。事業所の防火訓練には地域住民の参加を得るなど地域との連携は深まっている。大正琴ボランティアの受け入れ、近隣会館でのコンサートや地域の「シニアサロン陽だまり」への月1回の参加、事業所側からの行事案内など交流内容も多岐にわたり、地域との関係は良好である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で継続して暮らす事を支える、事業所独自の理念「地域に見守られ、穏やかに100歳へ」を掲げ、理念に沿ったケアサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員はカンファレンス、申し送り時間等を利用して理念の再確認の時間を設け共有を図っている。理念に基づいた具体的なケアの内容について、職員全体が意見を出し合いながら日々のケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、総会や小旅行、班長会議、地域の防災訓練等に参加している。また、事業所の防火訓練には地域住民の参加を得るなど地域との連携は深まっている。大正琴ボランティアの受け入れ、近隣会館でのコンサートや手芸教室への参加、事業所側からの行事案内など交流内容も多岐にわたっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を全職員に伝え、日ごろのケアを振り返る機会としても活用している。今回の自己評価においても話し合いの時間を設け、全職員で取り組んでいる。評価結果を受けて、町内会との合同防火訓練、他事業所との交流など、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員、町内会防災部長、家族、地域包括支援センター職員、事業所職員を構成員として、概ね2ヶ月に一度開催している。会議では、事業所側からの活動報告にとどまらず、参加委員が意見や要望を出すことで、より質の高い事業所運営につなげている。また、学習会を同時に行って認知症理解推進の場としても活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市主催の管理者会議や、地区連絡会議に職員とともに出席している。事例検討等の研修を通して、市担当者と情報交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の日ごろの暮らしぶりや身体状況等を必ず伝えている。また、金銭出納状況の報告も明確にしている。毎月の便りでは行事の様子や食事内容を伝え、緊急に連絡事項が生じた場合には速やかに電話連絡をしている。	○	職員の異動については現在、翌月の便りでの報告となっている。事業所側としても家族の関心事であることに配慮し、速やかに職員の異動を伝える方法を検討中である。実現に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には必ず声かけし、希望や意向の吸い上げに努めており、専用ノートに記録し、必要に応じてカンファレンスで検討している。毎年アンケートを実施し、家族が要望や意見を表出する機会を設け、アンケート結果は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による支援の重要性を認識しており、できるだけ異動や離職のない職場環境整備に努めている。職員の交代がやむを得ない場合には十分な引き継ぎや教育期間を設けて、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人は積極的に職員研修に取り組んでおり、年間計画を立てて職員の研修参加を支援している。段階に応じた外部研修の受講、毎月2回の内部研修体制で非常勤職員も含めた研修機会を設け、職員のスキルアップにつなげている。研修受講後は事業所内で研修報告を行い、全職員が研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者会議に出席し、同業者との交流を図っている。また、法人系列以外にも市内や地方の事業所訪問の機会を設け、職員同士の交流を通してサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族と面談する機会を事業所内で設け、食事やティータイムを共に過ごして事業所の雰囲気になれることができるように工夫をしている。利用開始後は、家族との連絡を密に取りながら、職員が一对一で関わり、利用者が安心して過ごせるようきめ細かなケアの提供に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、職員は利用者を人生の先輩として敬い、これまで培った知識や技術を発揮できるような場面作りに努めている。調理や縫い物、歴史的な知識などを教えてもらいながら、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりに応じた声かけをしながら希望や意向の確認や把握に努めている。家族からの情報や利用以前の暮らし方を基に、本人本意の暮らしの実現に取り組んでいる。	○	日々の関わりの中で得られた利用者の想いや新たな情報等については、アセスメントシートに記入日を明確にして整理しておくことが望ましい。きめ細かなケア実践がされているだけに、その根拠が明確に示されることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに担当制を取っており、日々の気づき、利用者それぞれの身体状況、本人や家族の希望等を勘案して担当者が原案を作成している。原案はカンファレンス時に職員全体で検討し、意見交換しながら利用者本位の個別具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に定期的に見直しを行っている。また、主治医の意見や効果測定の結果を基に、利用者の状況に応じた見直しを頻繁に行い、現状に見合った介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合に応じて受診同行や買い物外出、その為の車両の手配等の支援をしている。加えて、近隣デイサービスへの参加支援など、柔軟なサービスを展開している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じたかかりつけ医の受診を支援している。週1回の訪問看護師と月2回の訪問診療の医師との連携も緊密で、行き届いた健康管理を行っている。また、協力医とは24時間、相談できる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応にかかる指針を作成しており、利用開始時に説明している。看取り介護はしないけれども、状況に応じて医師、家族、本人と相談を重ね、方針を共有しながら可能な限りは事業所で過ごしたいという本人の希望に沿った支援を展開している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴を理解した上で、本人のプライドや尊厳を損ねない接遇や記録の仕方に努めている。各居室にトイレが設置しており、排泄時のプライバシーが保たれている。個人情報に係る書類は、所定の場所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの自己決定、自己選択の機会を確保し、表出された希望を尊重している。買い物や散歩に出かけたり、事業所内でゆっくり手芸や読書ができるように、それぞれの希望やペースに応じた過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、調理、盛りつけ、後片付けなどを職員と共に行っている。また、庭で栽培した野菜を収穫し味わうのも楽しみの一つである。出張蕎麦打ちや出張ラーメン屋などを利用し、利用者の希望を献立に反映しながら変化や楽しみのある食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を目途に、利用者の希望に沿って、いつでも入浴できるよう準備している。入浴時には好きな音楽を聴いたり歌を歌ったりして、楽しんで入浴できるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かし、家事参加や園芸、手芸、裁縫等の得意な事、好きな事で力が発揮できる機会をできるだけ作っている。また、ボランティアによる大正琴演奏や近隣会館でのコンサート参加など、楽しみや気晴らしのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望やその日の気分に応じて、買い物や散歩に日常的に出かけられるように支援している。また、気候の良いときには庭でお茶や昼食を楽しみ、気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中は玄関の出入りが自由である。利用者が外出したい様子がある時は、止めずに職員が付き添って出かけるなど、利用者の自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年救急救命講習を受講し、今年度は避難訓練を昼夜想定で2回実施している。訓練時には地域の防災部長も参加し、近隣住民との協力体制も充実してきている。母体法人や避難場所が近い事もあって、備蓄品は特に準備していない。	○	あらゆる災害を想定し、ライフラインが復旧するまでに必要な最小限の食料・水・毛布等の備蓄品の準備が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士の指導もあり、栄養バランスのとれた食事を提供している。食事量、水分量は個別にチェック表に記載し、利用者それぞれの状況に応じて過不足なく栄養や水分が摂れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から広い廊下を歩いて食堂や居間へと続く共用空間は、ゆったりとして明るく居心地の良いスペースとなっている。季節に合わせた装飾を随所に施し、趣味の良い空間となっている。廊下や2階にも長椅子を置き、思い思いの場所でくつろいだり外の景色を眺めたりできるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットを備え付けている居室には、利用者それぞれが使い慣れた生活用品や仏壇・お位牌・家族の写真等の大切なものを自由に持ち込み、安心して過ごせる居室となっている。また、全室にトイレを設置しており、プライバシー保護に対しての配慮をしている。		

※  は、重点項目。